

ドキュメンタリー映画「ソソンリ」上映にあたって

ZENKO（平和と民主主義をめざす全国交歓会）

今回上映するドキュメンタリー映画「ソソンリ」の舞台は、韓国の慶尚北道（キョンサンブクト）・星州（ソンジュ）郡にある人口がわずか100人ほどの小さな村ソソンリです。

ソソンリはのどかで平和な村です。「星州」と呼ばれる地名の通り、夜には美しい星空が広がっています。虫や鳥の鳴き声に取り巻かれる中で、田んぼや畑には稲やマクワウリや様々な農作物が豊かに実っています。ここで長年暮らしてきた70歳代、80歳代、90歳代のハルモニ（おばあさん）たちが畑仕事に精を出しています。

この映画は、そんなハルモニたちの日常生活を紹介していきます。韓国の片田舎の、日本でもよく見かけるような山村の平和で穏やかな光景を時間をかけて丹念に映し出しています。

しかし、このハルモニたちの生活の場に暗闇（くらやみ）とでも言うべきものが覆いかぶさってきました。それがTHAAD（サード。高高度ミサイル防衛システム）です。ハルモニたちはTHAAD配備に強く反対します。韓国のどこにでもあるようなこの農村で、韓国全土に響き渡るような反対運動が展開されています。

ハルモニたちはなぜTHAADに反対するのでしょうか？それは65年前まで朝鮮半島全土を戦場化した朝鮮戦争の体験に裏付けられているのです。ハルモニたちは同じ民族が北と南に分かれて命を奪い合った凄惨な体験を持っています。自分の村の人たちが犠牲になった姿を思い起こすのです。

ハルモニたちにとってTHAADとは朝鮮戦争の再来であり、ミサイルや核兵器の発達によって皆が死んでしまうような、さらに一層悲惨な戦争につながるかもしれないと実感しているのです。

「ソソンリ」は一見すると静かな映画です。しかし映像の中に登場するハルモニたちの人生と生活そのものが、THAADという火種を許すことができないというハルモニたちの気持ちを雄弁に物語っています。映像をよく見ると、ハルモニたちの日常の姿のすぐ横に反基地運動のスローガンや、石に書いた寄せ書きが映っていたりします。

ハルモニたちの静かな生活を守り戦争に反対する姿が、THAADに反対する市民に暴力をふるう機動隊、抗議する市民を白い歯を出して笑いながら撮影しつつTHAAD配備を進める米兵、現場に押しかけたTHAAD推進の右翼団体、そして南北の戦争終結・非核化を進めながらTHAADを強行配置する文在寅（ムンジェイン）政権など、現代韓国の抱える問題を浮き彫りにしていきます。

日本では沖縄・辺野古新基地建設に反対する闘いが続いています。この闘いもまた、県民の3分の1が命を奪われた沖縄戦の体験が運動の大きな原動力です。豊かな自然と平和な生活に入り込んでくる戦争に対する怒りが人々を立ち上がらせています。

韓国・ソソンリのハルモニたちの闘いと沖縄をはじめとした日本の反戦平和の闘いは一つのものです。その思いをこの映画を見ることで共に分かち合っていきたいと思います。



ドキュメンタリー映画「ソソンリ」紹介

監督:パク・ベイル(韓国) 87分

第22回 釜山国際映画祭ドキュメンタリー部門 メセナ賞(2017年)

第15回 ソウル環境映画祭 優秀賞(2018年)

第9回 釜山平和映画祭 夢みる平和賞(2018年) など

2018年、南北首脳会談が開催され、6月に米朝首脳会談が実現し、朝鮮半島の非核化、朝鮮戦争の終結と東アジアの平和実現へと大きく動いている。ところが、この歴史的な流れに逆らう大きな動きが二つ残っている。一つは沖縄辺野古への新基地建設であり、もう一つが韓国・星州(ソンジュ)ソソンリに強行配備されたTHAAD(サード。高高度ミサイル防衛システム)だ。この映画はTHAADに反対し声を上げるソソンリのハルモニ(おばあさん)たちの姿を描いたドキュメンタリーである。

「ソソンリ」のハルモニ(おばあさん)たち

ハルモニたちにとって、ソソンリは単なる村以上の意味がある。肥沃な土地ときれいな空気がある空、女性会の友人と一緒に話を交わして作業をして、美味しい食べ物を分けて生きてきた歴史が横糸と縦糸のように編まれ生きている空間である。

ところが、THAAD(サード。高高度ミサイル防衛システム)が突如配備される。ハルモニたちにとってTHAADは戦争と同じだ。長い年月、稲作を主に築いてきた土地・ソソンリのハルモニたちには、THAADが「国を守るために必要だ」という言い分は通じない。ハルモニたちにとってTHAADこそ、頑張って守ってきた人生を壊す「武器」なのである。

軍も兵力もないソソンリにTHAADが配備され、まるで戦場のようになった。ソソンリ住民は「危険な武器」を望んでいなかった。誰も戦争を経験したくないのに、「見えないところ」で戦争が起こるのが現実である。

結局THAADは「ハルモニ」、「農業をする人々」がいる、ソソンリに無理矢理に配備された。

ハルモニは、「THAADが来た!」と聞くと、畑仕事からも、睡眠中であってもソソンリを守るために走って行く。これら一日一日が日常であり闘争である。隣人とおしゃべりしながらも見回すと、あちこちにTHAAD反対の垂れ幕がかかっている。鍬(くわ)を握った手で農業をしても、駆けつけて抵抗する。

まるで泥棒のようにTHAADはソソンリに配備され、ハルモニたちはそこを守っている。ムクゲの花の前で笑って万歳を叫ぶ間も、暗い影がソソンリに伸び続けている。THAAD撤廃を約束したはずの文在寅(ムンジェイン)大統領の政府は、朝鮮戦争の終戦宣言を予告した南北首脳会談の直前にもTHAAD敷地工事を強行した。

ハルモニたちは今日も杖をついて屈せず立ちはだかっている。青空の下で隣人と仲良くウリを食べながら、ソソンリの村のあちこちに記憶が込められている生活の空間を守るために……



朝鮮戦争とは

1950 年から 1953 年まで続いた朝鮮戦争は当初は朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国の間の朝鮮半島の統一をめぐる「内戦」であったが、朝鮮軍が韓国南東部のプサン付近までを制圧し、そのあと「国連軍」の名目で介入した米軍などが押し返して逆に中国との国境付近まで制圧し、これに対して中国人民義勇軍が参戦することとなり、朝鮮全土が戦場と化した。そのために市民の犠牲者だけで 200 万人から 300 万人、各国の兵士の戦死者の数も数十万人から 100 万人以上とも言われている。朝鮮半島南北の民衆にとっては同じ民族同士の殺し合いでありその後の南北対立の大きな要因となってきた。韓国の星州でも多数の戦死者が出る戦闘が展開され、市民の犠牲者も多く出た。

ソソンのおばあさん達が 11 月 3 日ソウルの大統領府前で座り込み

10 月 26 日、韓国の国会法制司法委員会で、国防部長官が米軍サード（高高度ミサイル防衛システム）について「一般環境影響評価が終了したら、正式配備する手順を進める」と答弁した。これはサード配備地のソソンの北側に隣接するキムジョンなどのサードに反対する人々にとって許されない発言であった。

サードは、パク・クネ政権時代に配備が開始され、ムン・ジェイン政権に引き継がれた。ムン・ジェイン政権も、一般環境影響評価が完了しないまま、大量の警察官を投入してサード配備を強行した。車両を阻止するために座り込む住民たちは「違法不法な工事を中断せよ」と体を張って抗議し続けたが、政府は「これは一時的な配備である」と強行してきた。国防部長官の発言はその説明をひっくり返すものである。

ソソンでは、2 年以上前から毎夜ろうそく集会を行い、毎週「水曜集会」「土曜集会」を開いてきた。車両を阻止するために毎日朝と夕方に座り込みを続ける姿は、沖縄の辺野古や高江の光景とも重なってくる。10 月 31 日に「ソソン水曜集会」はちょうど 100 回目を迎えたが、その日の集会は、国防部長官の発言撤回を求める抗議の記者会見の場にもなった。

11 月 3 日、ソソンとキムジョンの住民たちはバス 1 台と乗用車 2 台に分乗して上京し、寒空の下、抗議の座り込み集会を続けた。おばあさん達は「ここままでは終わることはできない」と喪服を着て大統領府の玄関前の路上に座り込んだ。しかし、横断歩道から支援者たちが毛布や温かいスープを手渡そうとするのを警官が立ちをはだかって妨害した。「もうムン・ジェインを信じることはできない」と集まった住民と支援者たちは声を上げた。結局、大統領府との面談が実現し、夜遅くなってから、おばあさん達はスープ一杯を口にすることができた。

サード反対のスローガンは「サードは去って、平和よ来い！」であったが、最近は「平和は来た。サードは出ていけ！」とも叫ばれるようになっている。進展する朝鮮半島情勢の中で、サードを撤去させることは可能であることを示すスローガンである。

ソソンのおばあさん達はあきらめていない。ドキュメンタリー映画「ソソン」には、おばあさん達の日常とサードに反対する思いが深く描かれている。ぜひ多くの方に鑑賞していただきたい。そして、さらに連帯を深めていきたい。



2018 年 11 月 3 日 ソソンのハルモニたちが THAAD 正式配備表明に大統領府前で喪服を着て座り込み抗議

ソソンリ（韶成里・소성리）って、どんなところ



ソソンリは、慶尚北道の星州（ソソジュ）郡にある。
産業の中心は農業。星州はマクワウリの名産地（韓国内の約
70%を生産している）。「星州」の名前のとおり、空気が澄
んでいて星空も綺麗である。

マクワウリ →
（韓国では「チャメ」
という。）たくさん
のビニールハウスで
栽培されている。



岩には「我が故郷 ソソンリ」と書かれている。
山々に挟まれ穏やかに住めるソソンリには、
「ふるさと」という言葉がよく似合う。
右後方にサード反対の横断幕が見える。

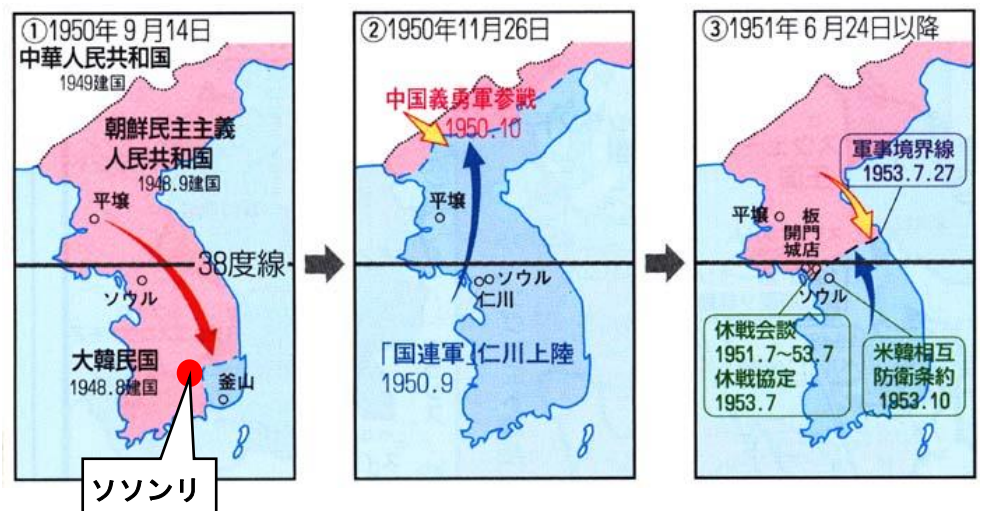


収穫期を迎え、黄金色の田んぼがゆれる。

朝鮮戦争ではソソンリ
も戦場になった。

朝鮮戦争では多数の民間
人を含む約300万人が
犠牲になった。

「敵に協力した」と疑わ
れた多くの一般住民が、
軍隊に殺害された。



ソソンリ住民と「守り人（連帯者）」による抵抗の写真



2017年9月 ムン・ジェイン政権が →
警察 8000 人を動員し、発射台 4 基を強行搬入。

←2017年4月 パク・クネ政権は、
警察 4000 人を動員し、Xバンドレーダー
と発射台 2 基を強行搬入。



←2018 年 4 月 12 日 すわりこむ住民。
パイプを組んで、ネットをかぶり、13 時間
抵抗し、工事車両の進入を断念させた。

2018 年 4 月 21 日 「大豆タンポポ合唱団」 →
（ソソンリ住民などでつくられた合唱団）



←パイプに腕を通して、体どうしをつないで、
人間の帯を作り抵抗した。

2018 年 4 月 21 日 警察 3000 人で搬入強行 →
（発射台敷地工事などのための資材搬入）



11月3日、ソソンリのおばあさん達がソウルの大統領府前で座り込み

10月26日、韓国の国会法制司法委員会、国防部長官が米軍サード（高高度ミサイル防衛システム）について「一般環境影響評価が終了したら、正式配備する手順を進める」と答弁した。これはサード配備地のソソンリや北側に隣接するキムチョンなどのサードに反対する人々にとって許されない発言であった。

サードは、パク・クネ政権時代に配備が開始され、ムン・ジェイン政権に引き継がれた。ムン・ジェイン政権も、一般環境影響評価が完了しないまま、大量の警察官を投入してサード配備を強行した。車両を阻止するために座り込む住民たちは「違法不法な工事を中断せよ」と体を張って抗議し続けたが、政府は「これは一時的な配備である」と強行してきた。国防部長官の発言はその説明をひっくり返すものである。

ソソンリでは、2年以上前から毎夜ろうそく集会を行い、毎週「水曜集会」「土曜集会」を開いてきた。車両を阻止するために毎日朝と夕方に座り込みを続ける姿は、沖縄の辺野古や高江の光景とも重なってくる。10月31日に「ソソンリ水曜集会」はちょうど100回目を迎えたが、その日の集会は、国防部長官の発言撤回を求める抗議の記者会見の場にもなった。

11月3日、ソソンリとキムチョンの住民たちはバス1台と乗用車2台に分乗して上京し、寒空の下、抗議の座り込み集会を続けた。おばあさん達は「ここままでは終わることはできない」と喪服を着て大統領府の玄関前の路上に座り込んだ。しかし、横断歩道から支援者たちが毛布や温かいスープを手渡そうとするのを警官が立ちをはだかつて妨害した。「もうムン・ジェインを信じることはできない」と集まった住民と支援者たちは声を上げた。結局、大統領府との面談が実現し、夜遅くなってから、おばあさん達はスープ一杯を口にすることができた。

サード反対のスローガンは「サードは去って、平和よ来い！」であったが、最近は「平和は来た。サードは出ていけ！」とも叫ばれるようになっていく。進展する朝鮮半島情勢の中で、サードを撤去させることは可能であることを示すスローガンである。

ソソンリのおばあさん達はあきらめていない。ドキュメンタリー映画「ソソンリ」には、おばあさん達の日常とサードに反対する思いが深く描かれている。ぜひ多くの方に鑑賞していただきたい。そして、さらに連帯を深めていきたい。

※写真は11/3 大統領府前の様子

(サード撤回総合状況室フェイスブックページより)

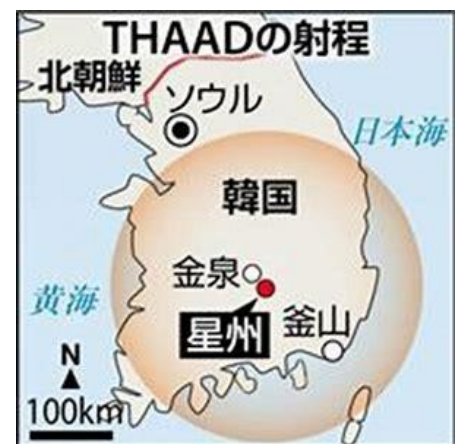
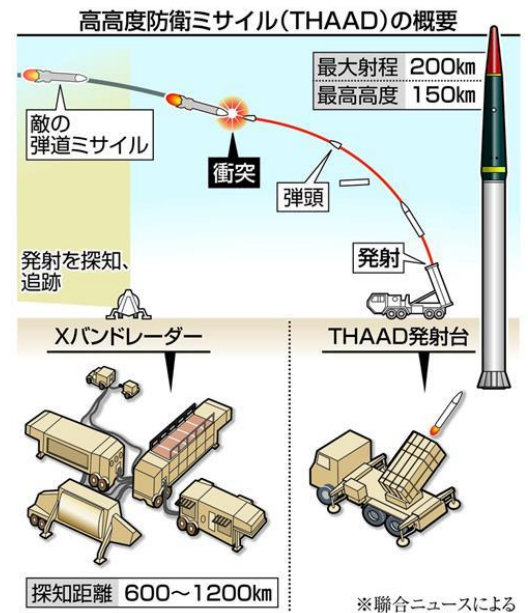


米軍THAAD（サード）の韓国への配備問題

THAAD(高高度迎撃ミサイルシステム)は、宇宙空間から大気圏に再突入してくる弾道ミサイルを高度 40～150km で迎撃する能力があるとされている。韓国では「北朝鮮に対応するため」とされているが、実際はXバンドレーダーも運用されるため、1000km 先の中国内部までレーダー監視できることになる。

そのため中国は強く抗議し、韓国への経済制裁を発動し、THAAD に対抗するとして新たなミサイル配備もすすめた。結局 THAAD は戦争の火種である。韓国政府がソソソリのロッテ商事ゴルフ場を取得し、その土地建物を米軍と韓国軍が使用している。THAAD 配備費用は 10 億ドル(約 1100 億円)にのぼる。

- 2015 年 1 月 韓国政府が THAAD 配備を発表
- 2016 年 7 月 星州(ソソソリ) 星山砲台への配備を発表
 - 7 月 中国が韓国に対し貿易報復措置を発動し始める
 - 7 月 韶成里(ソソソリ)でろうそく集会が始まる
 - 8 月 金泉(キムチョン)でろうそく集会が始まる
 - 9 月 韶成里のゴルフ場に配備場所が変更【下図参照】
- 2017 年 3 月 搬入トラックを住民らが止める
 - 4 月 警察 4000 人で搬入強行(レーダー等+発射台 2 基)
 - (5 月 ムン・ジェイン大統領就任)
 - 9 月 警察 8000 人で搬入強行(発射台 4 基の追加配備)
 - 11 月 警察 5000 人で搬入強行(将兵宿舍改修工事)
- 2018 年 4 月 12 日 工事車両を住民らが止める
 - 4 月 23 日 警察 3000 人で搬入強行(発射台敷地工事)
 - 以降 車両の出入りが続く。毎朝夕の座り込み行動
 - 9 月 6～8 日 THAAD 追加配備 1 年。大統領府前で平和行進
 - 10 月 26 日 国防部長官「THAAD 正式配備すすめる」と発言
 - 11 月 3 日 大統領府前で国防部長官発言に抗議の座り込み



THAADレーダーの探知可能範囲



※「韶成里(소성리)」の発音は「ソソソリ」に近いが、一般的な日本語表記である「ソソソリ」に合わせた。